

8月16日に開催される伝統の花火大会



案内図



地域で大切にされている爪切地蔵尊

爪切地蔵尊

山岡町久保原にある市指定文化財爪切地蔵尊。岩の表面に地蔵尊が刻まれたもので、弘法大師が一夜の内に爪で刻んだという、言い伝えが残ります。毎年8月16日を大祭として、約300年の伝統がある煙火を奉納します。

言い伝えでは、鎌倉時代の終わりごろの文保元(1317)年、草伯という僧が行基作の薬師如来像を奉持し、久保原村へ来訪したとき、村人がこの僧に帰依し草庵を立て迎えた。ある時この草庵に1人の老僧が訪れ一夜の宿をした。翌朝、この老僧の姿はなく、一枚岩の地蔵尊が傾いて立っていた。草伯は、「タベの僧は弘法大師で一夜にて爪で刻まれた」として爪切地蔵と名付けた。大師が立てんとしたとき夜明けとなり、一番鶏が鳴き人の近づく気配を感じて傾いたままにしたと伝わる。真つすぐにすると疫病災難があるといわれている。

お問い合わせ 山岡振興事務所
 56 2111